



# 常磐会報

第46号  
平成26年12月12日

発行所  
福岡県行橋市南大橋4-5-1  
京都高等学校常磐会  
印刷・デザイン  
(株)サラト



京都高等女学校校旗



京都高等学校校旗



## 目次

|                 |   |
|-----------------|---|
| ごあいさつ           | 2 |
| 平成26年度常磐会総会を終えて | 3 |
| 進路概況            | 4 |
| 部活動活動状況         | 4 |
| 定時制近況報告         | 4 |
| 恩師からのおたより       | 5 |
| 卒業生からのおたより      | 6 |
| 芳名録             | 7 |
| 伝統を未来へ          | 8 |
| 振り込め詐欺の注意       | 8 |



## ごあいさつ

常磐会会長 若山直樹  
(高校22回生)

常磐会会員の皆様にはますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて今年も常磐会総会の季節となりました。本年度総会実行委員は昭和57年卒業の高校34回

生、定時21回生、平成7年卒業の高校47回生、平成19年卒業の高校59回生の皆様です。執行実行委員長を中心に1年間しっかりと準備を進めてこられました。

この間のご苦労は大変なものであったとご推察申し上げます。総会、記念イベントの準備、協賛金のお願い、総会記念誌の発行と1年間気の休まらない日が続いたのではないのでしょうか。しかし、そのようなご苦労の中でこそ、同窓の絆を確かめ合うことができるのです。これこそ同窓会の醍醐味であろうと思います。まずは本年度実行委員の皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございます。

また、総会誌、広告協賛に快くご協力頂いた皆様、誠にあり

がとうございました。皆様からのご厚意は本年度総会の運営をはじめ、常磐会からの現役生への援助にと大切に使用させていただきます。誠にありがとうございます。

母校京都高校は2年後、平成28年に学校創立100周年という大きな節目の年を迎えます。また、本年末には100周年記念版の同窓会員名簿を発行する予定で、その準備を整えています。常磐会会員の総数も100周年を迎える年には3万人を超えるものとなります。先人達が営々と築かれ、今に繋がるこの100年の歴史と伝統はしっかりと守りついでいかねばなりません。会員の皆様のお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、母校京都高校のますますの躍進と、本年度常磐会総会の大盛会を祈念して私のご挨拶と致します。

この4月に校長を拝命いたしました高須雅光と申します。

平成21～23年度の3年間教頭として勤務させていただきましたが、この度大きなご縁をいただきまして、再び母校への奉職となりました。京都高校には、学生時代および教諭、教頭として校長と20年近くかかわりをもたせていただくこととなりました。浅学非才ではありますが、力の限り精一杯努めたいと存じますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。



## 校長挨拶

学校長 高須雅光

本校は、開校以来、生徒一人ひとりの能力を十分に発揮させ資質を伸ばす学校として地域の皆様方より評価をいただいているところであります。本校で学び、巣立っていった同窓生は28,000人を超え、国内ばかりでなく、広く国際社会においても、様々な分野で活躍されており、本校で学ぶ生徒たちにとっても、誠に心強く大きな誇りでもあります。

京都高校の学舎には、真剣に学習をする気概、真面目にそして一生懸命に生活する雰囲気がある。時代にも漂っており、その各時代において福岡県民や地域の要請に応えてきた伝統、その連綿と続く教育の幅と奥行き、そして諸先輩方のご活躍やご高名の数々は、まさに他の県立高校にも勝るとも劣らないものだと思っております。

現在、福岡県民や地域住民の皆様のご期待にお応えできるよう、同

窓生の皆様方が長い間積み重ねてこられました「夢」と「可能性」にあふれた学習活動を展開しつつ、また一方で、数多くの新しい本校独自の試みも積み上げております。私たちは今、それらすべてを包含し、本校に流れる「こころ」や伝統的教育精神を基軸として、京都生らしい「学びの姿」を形作ってまいりたいと念願しているところです。そして、生徒にとって何より大切なことは、各自がそれぞれ高い目標を持ち、自己実現を図るべく、学習や部活動等諸活動に日々精励することであります。力を尽くして努力を重ねることこそが成長や進歩に繋がっていくものであると信じております。

以上、本校発展に向け、全職員が一丸となつて精進する所存でありますので、同窓生の皆様にはさらなるご指導とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

最後になりますが、本校同窓会のみならず、ご隆盛を心よりお祈り申し上げます。

# 平成26年度常磐会総会を終えて

平成26年度常磐会総会実行委員長 執行 和彦

本日は、平成26年度常磐会総会、ならびに、記念講演会にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

本年度、実行委員長を努めさせていただきました高橋34回生の執行和彦です。実行委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

本年度の総会、記念講演会の開催に当たり、たくさんの方々の地域の方々や企業様から広告協賛をいただき、また、同窓の諸先輩方、後輩の皆様からは暖かいご支援をいただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

常磐会は福岡県立京都高等学校の同窓会組織として、その活動の目的は、会員相互の親睦と、母校の発展に寄与することです。母校京都高校は、平成28年度に創立100周年を迎え、その数30,000人弱の卒業生を送り出し、各界で活躍する同窓生も多々おります。我々同

窓生は、相互につながりを深め、母校の誇りを持ち、またそれぞれの道をしつかり歩いていくことで、母校への発展を支えていくと考えています。また、さらには、そのことが、母校および常磐会を支援いただく地域の方々、関係する多くの方々への恩返しとなることも、この総会の当番を機に感じるところです。

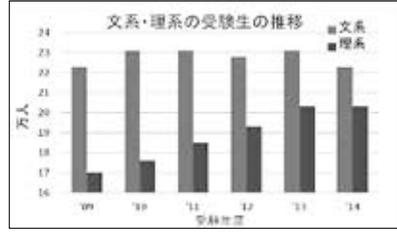
さて、本日の講演はいかがだったでしょうか。この記念講演会は、常磐会の総会を記念して開催されるものですが、広く一般にチケットは販売し、同窓生に限らず一般の方々も楽しんでいただけるようにと企画を考えました。本年度は、桂文枝師匠をお呼びいたしまして、通常テレビ等では見ることが出来ないパフォーマンスを体験していただくことが出来たのではないのでしょうか。ご来場いただきました皆様には、重ねて感謝を申し上げます。

また、本日の総会、記念講演会を迎えるにあたり、昨年度の総会後から準備委員会を立ち上げ、取り組んで参りましたが、縁あって共に動くこととなった常磐会高橋34回生、47回生、59回生、定時制21回生の皆さん、暖かいご支援を下さった会長を始め同窓生の皆様、母校の校長先生を始め地域の皆様、たくさんの方々に感謝の意を伝えますと同時に、この会が脈々と引き継がれてきたことに、母校の誇りと絆の強さを感じるところです。

最後になりましたが、母校京都高校、ならびに、同窓会常磐会、また、それを支えて下さる故郷の皆さまの発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



平成25年度 進路概況 進路指導主事 仲江 聖吾



常磐会におかれましては、日頃より本校教育にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

平成25年度入試

文系・理系の受験生の推移グラフを見ますと、文系は、23万人前後ではほぼ横ばいになっていますが、理系では、ここ5年で3・3万人増加しています。

上級学校合格状況・就職状況

Table showing graduation and employment status for the 25th fiscal year, including categories like National University, Private University, and various job types.

平成25年度 国公立大学合格者数(既卒生を含む)

Table showing the number of graduates accepted by national and public universities across various departments and regions.

平成25年度

主な私立大学合格者

Table listing the number of graduates accepted by private universities such as Aichi University of Education and Tokai University.

主な戦績 \*平成25年4月～26年1月までの期間での県大会以上

《体育部》

- 陸上部: 福岡県高等学校総合体育大会陸上競技対抗選手権大会 北部ブロック予選会... 男子800m, 男子やり投げ, etc.

女子バドミントン部

- 福岡県高等学校総合体育大会 団体戦 (県大会 ベスト8)

卓球部

- 福岡県高等学校総合体育大会北部ブロック予選 男子シングルス 丸谷 県大会出場へ... 女子シングルス 石田 県大会出場へ

空手部

- 平成25年度福岡県高等学校総合体育大会空手道選手権大会 北部・筑豊ブロック予選会 女子個人 形 榎原青空 3位→県大会へ

《文化部》

写真部

- 平成25年度県高文祭総合文化祭県大会 入選 為国友梨香 入選 横川己那

囲碁・将棋部

- 平成25年度全国高等学校総合文化祭 将棋部門福岡県予選 女子個人戦 畑中美里 2位 全国大会へ

部活動活動状況

Table showing the number of students participating in various school activities like sports and clubs.

Table showing the number of students participating in cultural activities like drama, music, and art.

定時制 近況報告

まず、平成二十五年度の生徒の進路状況をご紹介します。二十五年度は、四年修了生が二十四名、三年修了生が四名、計二十八名の生徒が卒業しました。

生活体験発表北九州地区大会は本校から、四年生一名、三年生一名が出場しました。今までの経験を発表し、優秀賞・努力賞を受賞し、一名は地区代表として県大会に出場しました。

恩師からの  
おたより 1

## 「みやこ」の思い出

4組担任

篠田光彦 先生



一番きつかったのは英宿ノートの添削でした。学年主任の中村先生がいつも風呂敷を持っていましたので、その理由をお伺いすると、英宿ノートをいつでも持ち運べるように用意していること、そしてこの添削作業の大切さを話してくれました。

この話を聞いてから英宿の添削に手抜きができなくなつて自分を追い込んでしまい、転勤した時に添削指導をする必要がなくなつてほつとしたことを今でも憶えています。

退職後の再任用、非常勤の勤務を入れて四十年間の教員生活のうち、九年間を京都高校で過ごしました。私が教員になった頃は、生涯三校経験すれば定年になると言われる程、同じ学校に勤務することが多かったのですが、私は六つの学校を経験しました。しかし、その六つの学校も様々な要因で校名が変わつたり、統廃合が進み、名前が残っているのは「京都高校」だけなのです。

勤務した昭和五十三年から六十二年の九年間を振り返ってみると、とにかく生徒も先生も大変でした。しなければならぬことがあまりにも多かつたですね。生徒の皆さんにとつて何が一番大変だったのですか。私にとつては、課外授業も教科指導も大変でしたが、

小さなことでも地道にこつこつすることの大切さは指導したバドミントン部で実感しました。部員は日曜、祭日もない練習環境の中で努力を重ね、当時定時に勤務していた内丸先生や事務室の相良さんの協力でめきめき力をつけ、石本・橋本ペアがインターハイに出場し、二回戦まで進出という実績を残しました。バドミントン指導は、その後転勤した二校でも続け、今は小学生になった孫達のコーチ? になつていきます。

最後になりましたが今年度の三十四回生の幹事の皆様のご苦勞に感謝いたしますと共に、今後の皆様のご健康と京都高校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

恩師からの  
おたより 2

## 卒業生の皆様、お元気ですか。

理科担当

近藤英俊 先生



理科の新採にて着任しました。おとなしい性格でしたので、記憶に残っている人は、少ないかと思えます。当時の校長は、林先生です。

「校長の林です。京都郡の(みやこ)高校です。」現在も、出向が流行ですので、はてなどは思ったものの福岡県内でしたので安心した次第です。

当時は、45人クラスの普通科6クラス、商業科、被服科および定時制がありました。宮崎秀一先生の副任として始まり、永島教頭、鳥谷、渡辺、飴沼、守、永吉先生、中村ワシ先生、白川Y、T先生に教師としてのイロハを教えていただきました。若手では、和田、金光、宮崎S、黒木、今畑、事務の相良先生、独身女性の吉積、斉藤、貞島、有馬先生がおられ大変楽しい充実した毎日をご過ごさせていただきました。

朝は、漢字や、活用文例集の朝テストから始まり、また英語のリーダーの丸写し、数学の鉄則の週宿題提出、月曜テスト、土曜テストがあり、毎日が充実していたと思います。放課後の物理教室では宿題をやる生徒、質問に来る生徒、アマチュア無線部の生徒、部活動終了後に語らいに来る生徒であふれ毎日が賑わっていました。定時の生徒達とバドミントンをやり、午後10時頃まで学校に残っています。

した。

楽しい思い出は、長井の浜のマテ貝取りでした。クワで砂をはぎ、穴に塩を入れると、クツと頭を出してくる。夕食は、生徒達が収穫したものを、塩焼きしていました。この遠足では、流木をマイク代わりに水戸黄門の「ああ人生に涙あり」を歌い、吉田K先生が「一茶のおじさん」を歌うなど、その場が、即演芸会場となっていました。1年の久任登山、2年の黒四ダム、兼六園、東尋坊の修学旅行、3年の受験生宿泊鹿兒島引率なども、いろいろ思い出に残っています。

先日、執行君達と同窓会に行きました。生徒達は、50歳になっていましたが、32年の月日を一気に乗り越え、当時の話題に花咲きました。また彼らとは、フェイスイスブック仲間です。住んでいる町は違っていますが、誰かがどこかに行つて、その場所のグルメを紹介するなど、おもしろいですよ。皆さんも是非、参加してください。

現在、大牟田高校の理科教師として物理・化学・生物・地学を、9クラス、20単位の指導に当たり、忙しく過ごしています。昨冬、京都都大路で全国駅伝大会がありました。本校の駅伝部の活躍には、感動しました。帰りのフェリーでは応援の保護者挨拶など、喜びの声が弾みました。

生徒達と一緒に過ごした37年、それがまだ、現役中です。年齢とともに、血糖値も高くなつてきていますが、皆さんも、健康に気をつけていきながら、充実した日々をお過ごしください。

卒業生からの  
おたより 1

## 東南アジアにかける夢

高校34回生 1組 貞好康志

今年一月、三十年ぶりに行橋での同窓会に出席した。僕らの同級生は昨年度ちょうど知命(五十歳)に達したことになるから、一つの節目だと思い、神戸から駆けつけた。みな相応に歳はとっている筈なのにキャリアクターはちっとも変わらず、卒業以来三十二年の歳月を一瞬で飛び越えてしまったような気がした。大森先生や吉田K先生、近藤先生のお元氣な姿に接することができたのも嬉しかった。京都高校といえば地域の名だたる進学校ではあるが、先生方も在校生も人間味あふれる個性的な顔ぶればかりで、授業や課外活動や時には校外でも、励ましあったりぶつかり合ったり、また友情を育んだり不器用な恋をしたりしたことを、なんだかいとおしく想い起こした一夜だった。

僕は大学で主に日本とアジアの近現代史を学んだが、卒業後はそれとあまり関係なく東京の木材専門商社に就職した。配属されたのがインドネシアからの輸入部門で、ここで生涯つきあう東南アジアと出会ったことになる。初めての海外もポルネオの合板工場めぐりだった。三年後、二十五歳の時に会社を辞し、一人でジャワに渡った。ビザの都合上いちおう留学という形をとってはいたが、あの頃は「このままインドネシア人になって生きてゆきたい」と思い詰めていた。それほど熱帯アジアの豊穡な風土、めくるめくように多様な文化、人情こまやかな人々の瞳に魅せられていたのだ。

結局十年も無職無定収のままインドネ



シアを中心とする東南アジアを彷徨し、幾つかの論文を書いて神戸大学に拾われた時は三十五歳になっていた。日本に戻ってはきたが、二十代の最後の年にジャワ人のつれあいと一緒にになったこともあり、心はいつもインドネシアに向いていた。大学教員になって早や十五年が過ぎたけれど、愛する東南アジアの歴史と文化について研究し、教えることができるというのは僕にとってまさに天職だろう。

昨秋はインドネシアの名門ガジャマダ大学と協定を結び、今秋にも第一陣の留学生を迎え、また派遣する。高校までの教員と違い、大学教員は学生の人格まで育てる職責は一応ないことになっているが、京都高校時代から自分が受けてきた学恩を思うにつけても、できる限り人間味のある研究・教育に努めたい。東南アジアにかける(賭ける、架ける、翔ける)僕の夢はまだ続く。

卒業生からの  
おたより 2

## 「今までと、これからと。」

高校59回生 6組 平田泰浩



京都高校を卒業して早7年。気づけば同窓会誌の原稿作成に筆を取る年齢になっていました。依頼を受けたのはいいものの何を書けばいいものやら悩みましたが、つらつらと筆をほらせます。

京都高校を卒業して早7年。気づけば同窓会誌の原稿作成に筆を取る年齢になっていました。依頼を受けたのはいいものの何を書けばいいものやら悩みましたが、つらつらと筆をほらせます。

思い返せば、京都高校に通った三年間、その後、現在、と私の人生はめまぐるしく変化しています。高校生から社会人になり、若輩者ながら社会の一員として慌ただしくも充実した日々を送っています。ただ、そんな毎日を送っていることも、思えば京都高校での三年間の生活がかなり糧となっています。決して真面目だとは言えない学生生活でしたが、所属していた剣道部の活動においては目標達成(大会入賞)に向かって準備をする大切さ(コンデション調整等)を学び、文化祭や体育祭といった行事では多人数で一つの目標を共有する難しさも学びました。もちろん今挙げたようなことは高校生の時には感じなかったことで、今だからこそ分かることだというのは重々承知しています。きっと今私が高校生だとしたら、それっぽいこと言っているなぐらいにしか感じていないでしょう(笑)。

ただ、だからこそ今こうやって実感で

きると思っていますし、私自身の行動指針というか理念につながってきています。その理念というのが「得意なことを見つけ、徹底的に伸ばす」ということです。

私は高校卒業後、進学はしませんでした。周りには多くの心配や迷惑をかけた高校時代、新成人だったと思います。ただその間に本当に色んなことを経験させてもらったなと思っています。傍から見れば典型的な「チャラチャラした若者」だったかもしれないけれど、その時に経験したすべての出来事が私の人生の指針と目標を与えてくれました。

前述した通り、私は私の理念の元に行動していると言っても過言ではありませんが、そこに辿り着くまでに本当に気づいたこと。それは「ムダな経験などない」ということです。人生のなかにおいて、好きなことというものはすぐに見つかっても得意なことというものはなかなか見つかるものではありません。たくさん経験のなかから自ずとその分野に関して秀でてくるものです。だから、私は本当に京都高校で得ることができたたくさんさんの経験に心から感謝します。

最後になりましたが、私は今某保険会社の専属プロ代理店の一員として日々活動しています。地域に根ざし、ゆくゆくはたくさんさんの経験を与えてくれた地元之恩返しができると思っています。その目標のためにもこれからますます京都高校卒業生としての看板を背負い、日々精進していこうと思えます。



# ときはの心と伝統を未来へ



2016年(平成28年)京都高校は創立100年を迎えます。大正6年京都郡立京都高等女学校として創立。学制変更により昭和22年福岡県立京都高等学校として新生。現在に至るまで地域の多くの方々に支えられてきました。常磐会はこれからも地域のみなさま、恩師の方々に感謝しさらなる100年を目指し、ときはの心と伝統を未来へ繋ぎます。

## 振り込め詐欺の注意



ここ数年来、振り込め詐欺被害の報告が同窓会へ寄せられています。同窓会事務局より、個別に電話で振込をお願いしたり、お知り合いの同窓生の住所等をお聞きすることはありません。不審な電話には十分ご注意ください。また、電話以外の手口も近年大変巧妙になり、はがき等でも同窓会を装うケースが報告されています。くれぐれもご注意ください。